

[成果情報名]イチゴ「ゆめのか」における間欠冷蔵処理の開始時期と処理方法

[要約]イチゴ「ゆめのか」の間欠冷蔵処理は、8月25日～8月31日の処理において無処理より頂花房収穫が前進化し、8月25日処理開始の2回処理は、同日処理開始の暗黒低温処理より収穫の前進化及び年内収量の増収が可能となる。

[キーワード]イチゴ、ゆめのか、間欠冷蔵処理、暗黒低温処理

[担当]長崎県農林技術開発センター・農産園芸研究部門・野菜研究室

[連絡先](代表) 0957-26-3330

[区分]野菜

[分類]指導

[作成年度]2015年度

[背景・ねらい]

本県では農家所得の向上を目的に、イチゴの主力品種である「さちのか」から、多収で輸送性に優れる「ゆめのか」への転換を図っている。その中で農林技術開発センターでは早期出荷と多収生産を実現するため、暗黒低温処理による早進化技術の開発を進めてきた。これにより「ゆめのか」の導入が進み、「さちのか」より100万円/10a程度、販売額が向上している。

しかしながら今後は「ゆめのか」の面積拡大に伴い、暗黒低温処理の冷蔵施設に限界が生じることが懸念される。

一方でこれまでに岡山大学を中核とした共同研究により暗黒低温処理を同一施設で2倍量を処理できる間欠冷蔵処理技術が開発されている。

そこで本県の気象条件下において「ゆめのか」への間欠冷蔵処理の適応性を確認するとともに、処理回数の短縮を念頭に、間欠冷蔵処理の開始日、日数及び回数が花芽分化早進効果及び収量に及ぼす影響を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. イチゴ「ゆめのか」の8月25日～8月31日処理開始の間欠冷蔵処理は3日×2回、4日×2回、3日×3回の何れの処理においても、無処理（自然分化）より出蕾・開花・収穫開始日が早くなる(表1)。
2. 8月25日処理開始の間欠冷蔵処理3日×2回、4日×2回処理は、同日開始の暗黒低温処理より出蕾・開花・収穫開始日が早くなり、年内収量の増収が可能となる(表1)。

[成果の活用面・留意点]

1. イチゴ農家が所有する予冷施設等利用をして経営の一部で間欠冷蔵処理を実施することで早出し率の向上が可能となる。
2. 2015年は、普通ポット育苗の花芽分化（自然分化）が平年より5日程度早い条件における試験結果であり、年次変動を確認する必要がある。
3. 間欠冷蔵処理と暗黒低温処理は処理終了日の12時に冷蔵施設から出庫後、冷暗所で保存し、翌日に定植。無処理は頂花房の花芽分化確認後に定植した(図1)。
4. 間欠冷蔵処理は、冷蔵施設と屋外管理を繰り返すため、出し入れに労力がかかる。本試験では、冷蔵施設から出した苗はコンテナに詰めた状態で苗床に戻し、通常の灌水管理（スプリンクラーによる頭上灌水）を実施した。

